

富岡製糸場が 世界遺産となった理由

富岡製糸場は、近代日本における産業発展の象徴として、2014年に世界遺産に登録されました。認定に至った背景には、明治政府が西洋の製糸技術を導入し、日本初の本格的な器械製糸工場として、1872年に設立させたことがあります。当時、養蚕が盛んに行われており、原料や水、土地の条件が整っていたことから、建設地に選ばれたのが富岡市でした。生糸は当時最大の輸出品であり、富岡製糸場は、その品質向上と大量生産の拠点となって、日本の経済発展を支えました。また、全国から工女を集めて技術を伝えたことで、女性の社会進出や地方への技術普及にも貢献しました。現在も創建当初の建物が良好に保存されており、総合的な歴史的・技術的価値の高さが評価された結果、世界に残すべき文化遺産と認められたのです。



“近代日本経済の父” 渋沢栄一の哲学

当時、民部省（後の大蔵省）の事務主任として富岡製糸場の設立に携わった渋沢栄一氏は「道徳経済合一」の思想を掲げ、日本近代資本主義の礎を築いた実業家です。「道徳経済合一」とは、利益追求と道徳的行動は対立するものではなく、両立すべきであるという考え方です。武士から実業家へと転身した彼は、論語の教えを重んじ、誠実・正直・勤勉を基盤とする経済活動を推奨しました。また、国家や社会の発展には、個人の成功よりも公共の利益を優先するべきだと考え、企業をはじめ、教育や福祉など約500の社会事業に関与し、利他の精神と長期的視野をもって、社会全体の調和と発展を目指しました。現代においても、倫理と経済のバランスを重んじる彼の思想は、サステナビリティや企業の社会的責任の重要性を考えるうえで大きな示唆を与えています。

OMIYAGE INFORMATION

富岡シルク

富岡産の繭だけを使った純国産のシルクは、光沢があり、なめらかで優しい肌触りです。富岡製糸場内「富岡シルクギャラリー」では、上質な服飾品などを専門に取り扱っています。人々の想いを乗せて紡がれたシルク製品を、名産地富岡で手にしてみませんか。



YUMMY's TOPIC!



高田食堂

創業当初から変わらない味で提供する、かつて工女たちにも愛されたカレーが味わえる洋食店です。